

市報

おおいた

60. 4.1

No.930

編集と発行

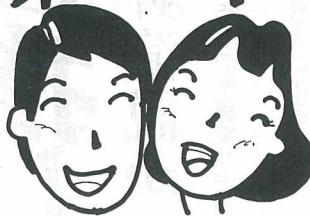
大分市荷揚町2番31号

大分市秘書広聴室広聴広報課

(☎34-6111)



ただいま
特訓中



春は就職シーズン。

(真剣な表情で研修)

夢と希望に胸をふくらませながら入社した、フレッシュマンたちの最初の仕事は社内研修。

一日も早く一人前にと、先輩たちの指導に熱が入り、受けるフレッシュマンたちも真剣な表情。

わたしたちの前に登場するのもまもなくだ。

さわやかさを忘れずにガンバレ、新入社員諸君！

《大分市の面積と人口》

〈市勢〉 面積…359.02km² 人口…382,784人(男 186,949人)
(女 195,835人) 世帯数…122,980世帯(2月末現在の住民登録から)

大分市の都市像 “縁あふれる豊かな人間都市”

100万経済圏の中核都市を目指して

佐藤市長の施政方針演説から



60年度予算案などが審議された第1回定例市議会

60年第1回定例市議会が3月11日から29日まで開かれ、60年度の予算案などが審議されました。

開会当初、佐藤市長は基本理念である「対話と行動」を基調に市民の参加と連帯を求める中で、情熱と行動をもつて「緑あふれる豊かな人間都市」づくりに積極的に取り組むとともに、周辺市町村、テクノポリス圏を含む「百万経済圏の東九州中核都市としての総合的機能を備えた21世紀の未来都市を目指したい」と市政を行った基本方針を説明しました。

今回は、佐藤市長の施政方針演説から、その要旨を紹介します。なお、議決された60年度予算については4月15日号で紹介します。

全市民の英知、発想、エネルギーを結集して都市づくりを

私は、50年春、市民の皆さんから市政を信託されて以来、今まで一貫して市民本位の市政をモットーとして、基本理念である「対話と行動」を基調に市民の参加と連帯を求めてきました。今日はほど自主、自助の精神に立った努力が求められ、地方の時代が再強調される中で、「市民自治」すなわち市民参加による活力、そして市民の連帯感に立ったエネルギーの結集が都市

これまで逐年前進してきたところであり、これもひとえに市民皆さんのご協力をいただきながら、職員と一緒に本市の特性を生かした「緑あふれる豊かな人間都市」づくりに向けて、情熱と行動をもつて積極的に取り組んできた成果と信ずるところです。

この間、オイルショックから低経済成長となる厳しい状況が生じ、本市を取り巻く社会経済情勢も従前とは著しく変ぼうしたため、これに対応して53年に亘る情報化社会への対応、高度情報機能を備えた情報中枢管理都市の形成など、今後の都市づくりを進めていくうえで、対応すべき多くの新たな行政課題が生じたため、再びその見直しを行

い、53年計画に盛り込まれた本事業を踏襲する中で、59年に見直しを行ったところです。私は、この計画を市政運営の指針として、全市民の英知、発想、エネルギーを結集する努力を主軸に、「生きがいと心のふれあいのある都市」を、「緑あふれる快適な都市」を、「心の豊かな育つ都市」を、「都市活動を支える活力ある都市」を、といふ5つを柱に、年次を追つて市民の作ったビジョンである基本計画の実現に全力を傾注しているところです。

21世紀の橋渡しとなる諸施策の推進を

さて、60年度は、私にとって3期目任期の折り返しの年に当たりとともに、21世紀の橋渡しの年となる節目の年でもあります。また、今年はちょうど国際青年年でもあり、6市町村合併後20年が過ぎ、成人式を終えた本市にふさわしい年ともいえます。そこで、新年度は、より一層心を引き締め青年の持つ若さと活力、無限の可能性へのチャレンジをするような心構えで次の

4項目、すなわち、(1)情報化社

会への対応 (2)生活環境の整備 (3)市民の連帯を基調とした人づくり (4)「保存と創造」を踏まえた文化の顕彰を中心に、市政の推進を図って行きたいと決意を新たにしているところです。

まず、情報化社会の対応ですが、今、全国的にINSの基盤づくりが着々と進められている中で、本市も既に全国8地区的指定を受けています。さらに、郵政省が推進している「テレトピア構想」の指定も3月5日に大分別府地区が指定を受けました。こうした状況を踏まえ、本巣議会、高度情報化研究会を設置し、調査研究活動を通じて、これららの推進を図るとともに、大分ニューメディアサービス株式会社への参加をはじめ、人材育成センター、ソフトパークの充実についても促進して行くとともに、末機を新年度は設置するよう対応します。

次に、生活環境の整備では、まず(仮称)東部清掃工場なら



第一期工事が完成した原川下水処理場

びに新葬斎場の建設促進をはじめ、道路関係では、北大バイパス、九州横断自動車道の受け皿の整備を図るほか、上下水道の整備では、大分川ダムの進展をはじめ、上水道第4次拡張計画の促進を図ることとともに、下水道では、新たに南部地区の公共下水道整備事業計画などの策定、大在終末処理場建設用地の造成に着手する考えです。

本市の公共下水道は、私が市长に就任して以来10年間、市政の最重要施策に掲げて、その整備に力を注いできた結果、普及率は27.0%に達するまでになりました。しかし、いままだ全国平均に達するには、なお一層の努力が必要ですので、今後とも鋭意これに取り組み、都市生活環境の整備を図って行きます。

次に、市民の連帯を基調とした人づくりでは、その拠点となる文化施設の総合複合体である(仮称)大分総合コミュニティセンターの完成を図ることとともに、各地区の連絡公民館が本年3月すべて完了することになりまので、第2連絡公民館建設構造を樹立する考えの中で、21世紀に対応する人材育成に力を注ぐ考えです。

次に、「保存と創造」を踏まえた文化の顕彰では、現在整備を

進めている国分寺遺跡の整備を図る中で、その一角に大友資料室などを含む歴史民俗資料館の建設に向け鋭意努力するとともに、本市の歴史文化の保存と展開に役立てたいと考えています。

しかししながら、私たちを取り巻く環境は、決して容易ではありません。すなわち、国の収支不均衡の深刻化からくる財政運営が、一段と厳しくなるものと思われるからです。私は、このような厳しい現実を厳正に受け止めながら、健全財政を堅持しつつ、これまでに国に先駆けて行つた職員数の抑制、3部1課12係の機構縮小などによる実行的行政運営に徹し、本当に市民が必要とする諸施策を

真に市政を紹介するページ

後退させることのないよう、積極的に取り組んで行きたいと願っています。

また、「重・厚・長・大」といわれる基幹産業の発展の上に、「軽・薄・短・小」といわれる高度先端技術産業の展開が将来にわたってあることを思うとき、新産業都市建設の計画をさらに推進する中で、テクノポリス都市づくりを進めて行きます。

今日、県下の約3分の1になんなんとする人口を抱え、市域を越えてますます拡大する経済圏は50万都市を構成する中では、周辺市町村を踏まえ、南は臼杵、北はテクノポリス圏を含む広域市町村圏をはじめ、大野の一部を踏まえるとき、それは百万経済圏構想として捕らえねばなりません。

そこに本市の使命の重大性があり、東九州の中核都市として、総合的機能を備えた21世紀の未来都市を目指す本市の目標があると考えます。

今後、一層の情熱と行動を持つ渾身の力を傾注して行く考えですので、市民の皆さんのご協力、ご支援をお願いします。(次頁へづく)

忘れてはせんか 交通安全

4月6日
～
4月15日

春の全国交通安全運動が始まります

重点目標②
シートベルト・ヘルメット着用の徹底

4月には、真新しいランドセルや服を身につけ、新入学児童が学校へ通い始めます。今まで通ることの少なかった通学路です。慣れない道を通することになりますので、親子でいつも歩いてみながら危険と思われる交差点では、渡り方などを実地に指導しましょう。

シートベルトの着用は、あなたの命を守るだけでなく、正しい姿勢で運転することによる安全運転にもつながります。また、二輪車を運転するときは、事故から身を守るために必ずヘルメットを着用しましょう。



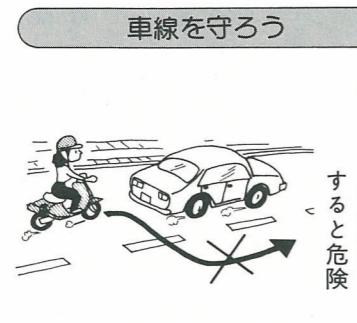
いざというときに動きやすく



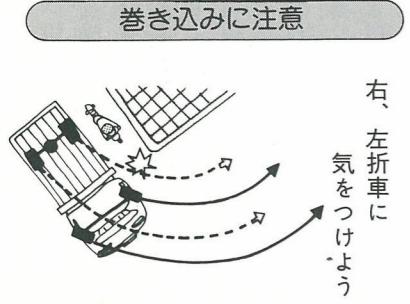
大切な頭部の保護



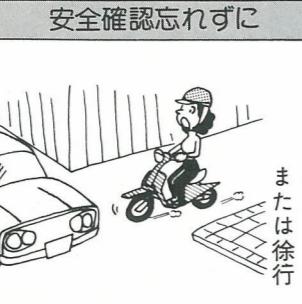
カーブでは速度を落とそう



みだりに進路変更すると危険



右、左折車に気をつけよう



いったん停止または徐行

重点目標①

新入学（園）児を中心とした子供の交通事故防止

「思いやりみんなですすめめる交通安全」をスローガンに、4月6日から15日までの10日間、全国一斉に春の交通安全運動が始まります。地域の皆さんで交通安全を進めましょう。

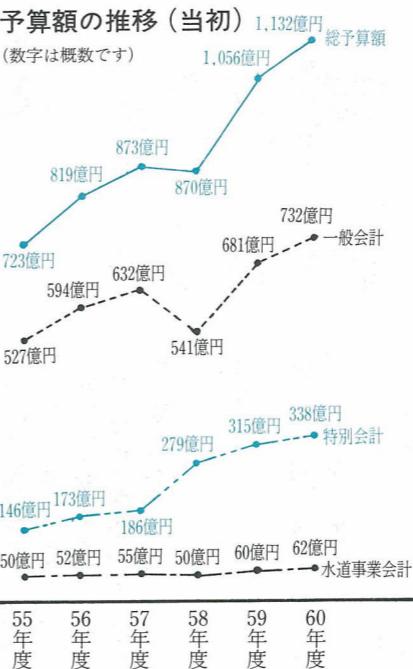
乗る前に

走行中は

交差点では

が急激に増加しています。中でもファミリーバイクと呼ばれる原付き自転車の事故は、二輪車事故全体の7割強を占めています。

学、買い物など広く使われているバイク。ハンドルを持つたらひとりのドライバーとして自覚と責任を持ち、交通ルールとマナーを守り安全運転に心掛けましょう。



わが国の経済は、米国を中心とする先進諸国の景気の回復、物価の安定、新たな技術革新などを背景として輸出が増加を続け、ゆるやかながら着実な回復を示しています。

また、国内における企業の設備投資も順調に回復しているほか、物価の安定により民間消費支出も増加して、業種別、地域別などにばらつきが残されています。景気は全体としてみれば拡大基調にあり、引き続き回復が期待されています。こうした状況の中でも、国、地方の財政状態は厳しく、こと

に国の巨額な借入金が減額される見通しではなく、依然として大幅な収支不均衡が続くものと予想されています。このため国の新年度予算案は、臨時行政調査会の行財政改革方策に沿って、歳出においては経費の徹底した節減合理化に努めるとともに、歳入にあたっては、公債発行額を極力縮減することとして、全体の規模を前年度比3・7%の増となる緊縮予算を編成しているところです。

特に、国は深刻な財政事情から、新年度は高率国庫補助負担率の1割引き下げを行い、地方への負担増をもたらす方式をとつたことは、既にご案内どおりです。そこで新年度の地方財政計画では、これを受け、歳出に見合う収入において地方交付税では国税の伸びによる増額分と補助税1割カットによる財源補てん分を合わせると久方ぶりに10・9%の2けた伸び率が見込まれた反面、地方債は、地方税と地方交付税の伸びから17%と大幅に減率し、財源対策債の発行は不要として起債充当率を從前の低率に戻す措置をしています。

このことは、一面では、従来よりも地方債依存度が下がることになるわけですが、他面では、それだけ税などの一般財源が多く見込まれることとなり、事実この地方財政計画の上でも地方税、地方交付税、地方譲与税を合わせた一般財源比率は前年度の60・8%から64・2%と上昇しています。従って、新年度は、計算の結果普通交付税の交付団体にかかるか否かで大きく財源確保に影響

がでできます。本市の財政状況を見ると、自家財源の主体をなす市税については、新年度は固定資産税の評価替えの年であり、法人関係税などに前年度から景気回復の影響が見受けられるため、前年度対比7・8%の伸びを見込んで計上したところです。しかし、この市税の国による見込まれ方いかんによつては普通交付税の不交付団体になることも予想されるところから、新年度の予算編成に当たつては、厳しい国の施策や地方財政計画を勘案しながら、増嵩の一途をたどる行政需要と自家財源の動向を踏まえ、健全財政を基本に充実向上を図つて、歳出にあたつては、経費の節減を行いつつ、三大プロジェクト事業の（仮称）大分総合コミュニティセンターおよび（仮称）東部清掃工場の建設や葬儀場の実施計画に取り組むほか地域経済活性化対策として、普通建設事業を前年度に比較して約12・7%伸びるとともに、歳入にあたつては、現時点で見込み得るすべての財源を計上する一方、財政調整基金10億円を取り崩すなどして、財源の重点的、効率的配分に努め、市民の要望に出来得る限りこたえるよう配慮して積極的な編成を行つたところです。

その結果、60年度の予算規模は一般会計7百32億2千72万3千円、特別会計3百37億9千5百万9千円、市債64億6千7百30万円、緑入金10億円、諸収入合算した総予算額は1千31億6千7百21万6千円となりました。

は一般会計7百32億2千72万3千円、特別会計3百37億9千5百万9千円、市債64億6千7百30万円、緑入金10億円、諸収入合算した総予算額は1千31億6千7百21万6千円となりました。

一般的会計の歳入の主なものに見込まれ方いかんによつては普通交付税の不交付団体になることも予想されるところから、新年度の予算編成に当たつては、厳しい国の施策や地方財政計画を勘案しながら、増嵩の一途をたどる行政需要と自家財源の動向を踏まえ、健全財政を基本に充実向上を図つて、歳出にあたつては、経費の節減を行いつつ、三大プロジェクト事業の（仮称）大分総合コミュニティセンターおよび（仮称）東部清掃工場の建設や葬儀場の実施計画に取り組むほか地域経済活性化対策として、普通建設事業を前年度に比較して約12・7%伸びるとともに、歳入にあたつては、現時点で見込み得るすべての財源を計上する一方、財政調整基金10億円を取り崩すなどして、財源の重点的、効率的配分に努め、市民の要望に出来得る限りこたえるよう配慮して積極的な編成を行つたところです。

◎60年度会計別予算

一般会計	732億2,072万3,000円
特別会計	337億9,541万円
水道事業会計	61億5,108万3,000円
総予算額	1,131億6,721万6,000円



▶ 大分・武漢友好都市締結5周年記念行事の写真展を開催中

3月15日から市役所1階市民ロビーで、大分・武漢友好都市締結5周年記念行事の写真展を開いています。

これは、昨年9月に行われた記念式典をはじめ、武漢の森落成式、湖北省ならびに武漢市商品展覧会、武漢曲技団大分公演などの事業の様子や友好の場面を写真パネルにしたものです。

4月13日まで開催していますので、是非ご覧ください。

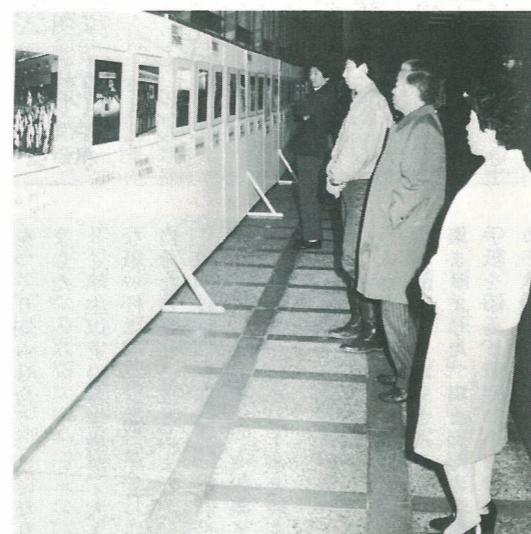
ふるさとの味をたんのう

~「故郷おおいた友の会」関西地区故郷懇談会~

3月9日、大阪市大淀区の東洋ホテルで「故郷おおいた友の会」関西地区故郷懇談会が開かれました。

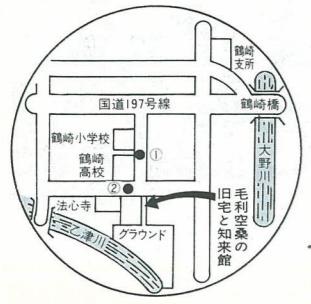
これは、「故郷おおいた友の会」が、2年目を迎えたことにより、ふるさとの味と香りを通して県外の市出身者と大分を結ぶとともに流通機関との連携と販路の拡大を図るために開かれたもので、関西にいる市出身者60人が参加しました。

意見交換会や市政紹介の映画観賞のあと、参加者は郷土料理を囲む昼食会で、「ホーチョー」や「やせうま」、「魚ずし」などに舌鼓を打ち、ふるさとの味を懐かしくかみしめていました。



毛利空桑像と小さなポーズ

鶴崎西町バス停から南へ行くと、鶴崎小学校と鶴崎高等学校との間の一角に、佐脇健一さんの作品「小さなポーズ」が愛らしくたっています。もう少し進むと、つつじなどがきれいに植樹された通称法心寺前通りがあります。



魚屋さんの車も広報車に早変わり

▲ ふれあいを深めた賀来校区駅伝大会

3月10日、賀来地区で、賀来中学校新校舎完成記念を兼ねて、地区民の親ぼく、ふるさとづくりの活動のひとつとして、第1回賀来校区駅伝大会が行われました。

競技は、小・中学生から40代まで、女性も加えて総勢15チーム135人が参加して、地区1周14.5kmを力走しました。沿道には、地区民が大勢出て、選手に声援を送っていました。

成績は、1位東野台、2位国分新町、3位国分でした。

▼ 「火災のない街づくりを」と市民と消防のつどい

3月10日、坂ノ市中学校グラウンドで、消防団や地区婦人会、親子連れなど約2,000人が参加して、「市民と消防の集い」が行われました。

これは、「市民と消防関係者が一体となって火災のない街づくりを」と毎年、春の火災予防運動期間中に行われているものです。

つどいでは、チビッ子防火服早着大会や婦人会によるバケツリレー大会などのほか、消防団による古典はしご操法も披露されました。子供たちは、はしご車の体験塔乗やモチつき大会に大喜びでした。



羽田下
西田利治さん



元気よくストライク

野球は、最も盛んなスポーツのひとつ。これを支える審判のひとり。講習会が、3月10日、賀来の大分銀行グラウンドで行われました。今回は、初めて講習会に参加したきつかけは

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きですから、野球となんらかの形で講習会に参加したきっかけは

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きで、野球好きな形で講習会に参加した羽田下の西田利治さんにインタビューしました。

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きで、野球好きな形で講習会に参加した羽田下の西田利治さんにインタビューしました。

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きで、野球好きな形で講習会に参加した羽田下の西田利治さんにインタビューしました。

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きで、野球好きな形で講習会に参加した羽田下の西田利治さんにインタビューしました。

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きで、野球好きな形で講習会に参加した羽田下の西田利治さんにインタビューしました。

… 昨シーズン限りで、現役を引退しましたが、野球が好きで、野球好きな形で講習会に参加した羽田下の西田利治さんにインタビューしました。

